

中東における自衛隊の展開

ジブチ基地

- ソマリア沖、アデン湾での海賊対処拠点。2011年7月開所。
- 派遣海賊対処行動航空隊
P3C哨戒機2機による飛行隊と整備補給隊より編成
- 派遣海賊対処行動水上部隊
約200名・海上保安官8名
護衛艦2隻（2016年12月より1隻 現在は33次あさぎり）
- 派遣海賊対処行動支援隊
海上自衛隊約30名、陸上自衛隊、軽装甲機動車などを装備する
約80名。
- 空輸支援は航空自衛隊第一輸送航空隊（小牧基地）のC-130輸送機

海賊被害は低い水準で推移しており、事実上、任務は「終了」していると思われる。名目上は海賊対処だが日本政府は「ジブチ拠点を恒久化する方針」
（産経新聞 2018.10.14）

ジブチ基地で邦人救出訓練を行う

安保関連法に基づく邦人等訓練が2017年9月25日から10月2日にジブチで行われた。

訓練には、陸自の中央即応連隊から隊員約70人、空自の第一輸送航空隊404飛行隊（小牧）から約20人、KC767空中給油・輸送機が参加。

「邦人保護」の目的で基地を置くことは絶対にいけないことです。国民を救うために軍隊を派遣することは侵略行為にあたるからです。（伊勢崎賢治さん・東京外語大教授談）

国連が統括しない活動にも参加

2019年4月よりエジプトのシナイ半島でイスラエル、エジプト両軍の停戦監視活動をおこなう「多国籍軍監視団（MFO）」に陸上自衛隊幹部2名の派遣を閣議決定し実施。国連が統括しない「国際連携平和安全活動」への参加である。専門家からはMFOは停戦監視の任務から「過激派」対処の任務にすでに変質しているという指摘がされている。

ジブチ基地での邦人救出の訓練

